

博士課程教育リーディングプログラム現地視察報告書(平成28年度)

博士課程教育リーディングプログラム委員会

機関名	早稲田大学	整理番号	N02
プログラム名称	リーディング理工学博士プログラム		
プログラム責任者	橋本 周司	プログラム コーディネーター	朝日 透
<p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中間評価指摘事項に対して誠実に対応していることが確認できた。特に応募時期を見直し、入学試験を年2回(6月と12月～翌1月出願)としたことで応募学生の増加が期待される。さらに、入試説明会の実施、現役リーディング生のインタビューをYouTube掲載、学部生も対象とした公開授業の実施など多様な学生獲得に向けた努力が行われている。 ・ 女子学生や留学生の獲得のための努力も行われていることは評価でき、その成果が期待される場所であるが、取り組んでいる対応策が本質的な打ち手になっているのかを吟味する必要がある。なお、他大学のプログラムでは外国人学生の存在がグローバルリーダーを育成する上で良い刺激となっていることから、本プログラムでも実効性の高い対応策を講じる必要がある。 ・ 不合格や途中離脱の学生にも再受験のチャンスを用意するとともに、他大学や他専攻への移籍を含めたサポート体制を作ったことは評価できる。 ・ 学生との意見交換により、1) ジャーナリズムコースに入って政治経済に興味を持ち、言葉の表現力が付いた、2) 異分野学生とのディスカッションによりエネルギー問題を多角的な視点から解釈することができた、3) 話す力がつき、会議で積極的に発言するようになった、4) 文理学生が半々で構成されるエネルギー特論では、原発、水素等をディベートし、座学では得られない広い視野が得られた、5) ラボローテーションで電力工学+AI(機械学習)の発想ができたなど、学生自身が種々の刺激を受け、自己分析をしつつ成長していく過程が認められた。また、学生自身も通常のコースでは得られない力が身に付いていることを実感しており、本プログラムで標榜している人材に向けて着実に育成が進んでいると判断できる。さらには、リーディングプログラムの学生としてリーダー養成のための多くのプログラムをこなしながらも、論文、学会発表において標準レベルかそれ以上の研究実績があげられていることが確認でき、高く評価できる。 ・ キャリアパスについても、前回の訪問時に比べ自身の考えがより明確になっている様子が見え、頼もしく感じた。また、最終学年となった1期生の就職も順調であり、企業へ就職内定した学生が7割と目標をクリアした。さらに、海外企業インターンシップの経験が企業から評価されたとの学生の発言もあり、今回大学側から説明のあった1期生のインタビュー動画のHP公開は本プログラムへの関心を高める上で極めて有効な広報活動になるものと期待される。 <p>2. 意見(改善を要する点、実施した助言等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中間評価での指摘には真摯に対応していると思われるが、対応の結果がまだ明確に表れていない部分もあるため、2年後の事後評価に向けて具体的な成果を明示できるように努力してほしい。 ・ 女性、外国人が少ないことについて、学生が本プログラムをどう捉えているのか、何が受験を妨げているのかなど、学生の生の声に耳を傾け、本質的な打ち手を講じる必要がある。 			

- 本プログラムは、世界のエネルギーに関わる課題を解決するグローバルリーダー人材を輩出する世界に冠たる研究教育拠点として発展することが期待される。そのためには、早稲田大学出身者だけではなく世界中から優秀な人材が集まるサイクルが出来ている必要がある。そのため、他大学から相互乗り入れするといった仕組みを検討することが望まれる。
- 大変良いプログラムであるので、本プログラムに関わる講座の教員から所属学生に対して、入学を勧める積極的な働きかけを実施することが望まれる。
- 学生の教育効果・達成度を測る仕組みは挑戦的な取組で良いが、単に学生を評価することのみに留まらず、個々の学生の成長に各プログラム・指導・経験等がどのように影響したのかデータを蓄積・分析し、データやエビデンスに基づいた効果的な教育の実現を目指してほしい。
- プログラムで育ち、巣立っていく学生が実務についた後も何らかの関係を保ち、可能な限りその多くが、本支援期間終了後に大学に常設されるコースに参画する仕掛けを作っておくことが望ましい。